

区分	取り組み内容	内容	令和7年度の実績	課題・今後の取り組み
①幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・STを中心とした保護者向け研修の実施 ・OTによる家庭でのからだづくりの研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に向けた連続研修を行い、家庭での子どもとの過ごしを考える機会をもつ。また、支援の基本となる子ども理解やアセスメントの方策に目を向けてもらえるよう研修を行う。 	小児科医研修：4月26日、8月23日 特性理解・支援ツール作成研修：7月10日、8月6日、9月18日、10月16日 サポートブック研修：11月13日、12月11日、1月30日、2月26日 感覚統合研修：2月7日、おうちでできる身体づくり	保護者研修には多くの参加をいただいたが、ある程度参加者が固定になる傾向もあり、今後より広く参加していただけるよう工夫していく。
②市町村及び地域の関係機関との連携体制を確保 ④地域の障害児通所支援事業との連携体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援部会、通所事業所連絡会への参画 ・こども課、健康推進課、幼児保育課との定期連絡会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・東海市自立支援協議会発達支援部会の事務局および東海市立あすなる学園と協力し、市内の児童発達支援事業所と放課後等デイサービスに向けてアンケートをとり、巡回相談を行うことで事業所との連携を深め、事業所内での困りごとや課題を行政や児発センターと共有し解決を目指す体制を整える。 ・こども課と健康推進課、幼児保育課との月1回の定期連絡会および卒園予定児の進路相談会の参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談アンケートを9月25日に配布。回収を兼ね、あすなる学園とカトレアで各事業所を訪問。 ・園内の連続研修（サポートブック作成会）へ市内事業所を招待。2施設参加。 ・アンケートを元に市内事業所への巡回相談実施。聞き取りや子どものアセスメント、個別相談を行った（12月、2月）。自立課題貸し出し実施。 ・保育園連絡会（8月、9月）実施。 ・市立保育園入所等支援委員会出席（センター長・8月、11月） ・発達支援連携会議出席（センター長・7月、3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ②自立支援協議会、発達支援連携会議等に参加しながら、各関係課と連携をとってきた。今後センターと保育園の並行利用なども含め、話し合いを進めていく。 ④各事業所で環境が異なるため、個別相談や巡回が有効な場合と、事業所職員をお招きする方が有効な場合とがある。また、各事業所が参加しやすい・参加したいと思えるような研修の企画やその時間帯の検討を行う必要がある。 発達支援部会や通所事業所連絡会を通じてメールなどで連絡をとっているが、各事業所の現場職員まで情報が行き渡っていない様子もあったため、どのように情報提供を行うかも令和8年度検討を行っている。
⑤インクルージョンの推進体制を確保	保育所等訪問支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・市内保育園、幼稚園、小学校、支援学校に在籍する子どもと保護者に対しての直接支援、先生方への間接支援を行うことで、集団の中で子どもたちがよりよく過ごすことを目指していく。 	のべ実施回数：20回 利用人数：7名	児童発達支援事業所との併用を行うお子さんが増え、園側としても対応に苦慮される場面も見られる。一方で、現在の環境でできることの限界もあり、子どもにとって望ましいこととの乖離もある。それぞれの現場で実現可能なこと、子どもにとって必要な支援を考えながら、よりよい方法を探っていく必要がある。
③幅広い発達段階及び多様な障害特性に応じた専門的な発達支援・家族支援の提供体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校への巡回相談 ・卒園児のフォローとして、市内小学校への引継ぎ及び相談を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課・東海市立あすなる学園と連携し、市内小中学校に在籍する児童生徒の発達の課題における相談窓口として、巡回相談を行う。 ・卒園児が就学した小学校へ出向き引継ぎを行うとともに、学校の中の課題について相談援助を行う。 	実施回数：4回（市内小学校4校） 利用人数：4名	保育所等訪問支援や卒園児の相談をきっかけに、小学校と連携し、巡回を行った。年齢幅があり、こどもの発達の状況や課題も幅広い支援級の抱える課題、学校現場での困り感や求めていることを把握した。今後も連携をとりながら、地域全体でこどもの育ちを支えていく。

中核機能強化加算の算定において求められる各要件に係る取り組み状況

令和7年度 No.2

区分	取り組み内容	内容	令和7年度の実績	課題・今後の取り組み
④地域の通所支援事業所との連携体制の確保	地域における支援力向上のための地域研修会の開催	発達に課題のある子どもが地域で適切な支援が受けられるよう、地域全体の子育て支援力を高めるため、保育園等や通所事業所の職員を対象に研修会を開催。	・支援者向け研修会 講師：NPO法人ゆう 荻野ます美氏 テーマ：自閉症支援者へのメッセージ ～家族の立場から～ 令和7年6月14日（土） 14：00～16：00 参加者：51名	・参加者からは好意的な意見が多く出ており、実施の効果が高かった反面、外部の参加者をより多く呼ぶための取り組みが必要。周知の仕方、開催の曜日や時間帯なども検討していく。
⑥入り口としての相談機能を果たす体制を確保	ひだまり教室実施 相談支援専門員	東海市健康推進課より委託を受けた「ひだまり教室」にて、子どもの発達相談、医師による相談や研修、進路選択に関する相談を行う。	参加のべ人数：632名	市内幼稚園にて満3歳児クラスの入園が容易になり、療育と満3歳児入園で選択を迷う保護者が増えてきている。子どもの発達をどのようにとらえるか、先の見通しを保護者にどのように持ってもらうかが課題。